

「何も症状はないし、体もよく動かし、健康には気を使ってきましたが……。家族にも兄以外にはがんはないし……」

と、納得がいかない様子です。しばらく自分の気持ちを話したPさんは結局、「そうですね、がんですか」と病名を受け入れ、それならどうしたらいいか、と今後の治療を聞いてきました。

● ● 解説 Step 2 ● ●

いよいよ患者説明が始まりました。私は話しはじめてすぐに病名を伝えました。

私はがん病名を、意識的に面談の早いタイミングで伝えることにしています。患者さんの反応は人によって異なり、冷静な人からパニックになる人までいますから、どのような展開になっても対応できるように時間をとっておくといいでしょう。

Pさんは、病名を聞いた直後には「まさか自分がかんなんて」と反応し、すぐには病名を受容できませんでした。しかし早めに病名を伝えたため、私には彼の心の葛藤に耳を傾ける時間的ゆとりがありました。

CASE Step 3

私は、「手術を受けるのが一番よい。がんはまだ早期で手術で助かる可能性が大きい」と説明しました。そのうえでこう言いました。

「よければこれから外科のドクターに診てもらえますが、どうでしょうか？」

Pさんは考えている様子です。

「急に手術と言われても気持ちの整理がつかないでしょう。来週もう一度お会いしますか？」と私がさらに言つと、決心がついたらしく、こう答えました。

「これからすぐに外科医に診てもらいたいです」

● ● 解説 Step 3 ● ●

病名伝達に続き、第一選択の治療法として手術を勧める場面ですが、私は2つのことを心がけました。

1つには情報を小出しに伝えました。Pさんはがんと言われて、頭の中が真っ白になっ